

フィリップス × 東北大学、日本初となる7年間の戦略的研究契約を締結、第一弾テーマに①「麻酔科医の遠隔教育」②「慢性心不全病態のAIデータ解析」を採択

不足する麻酔科医の働き方を支援、心不全患者のQOL向上を目指す

株式会社フィリップス・ジャパン

© 2021年12月8日 14時00分



株式会社フィリップス・ジャパン（本社：東京都港区、代表取締役社長：堤 浩幸、以下 フィリップス）と国立大学法人 東北大学（所在地：宮城県仙台市、総長：大野 英男、以下 東北大学）は、2020年10月に、ロイヤルフィリップス（本社：オランダ、アムステルダム、NYSE：PHG、AEX：PHIA）が主催するイノベーション推進のためのプログラムClinical Research Board（CRB）の日本初の認定パートナーとして東北大学を選定したことを受け、共同で推進するプロジェクトとして「麻酔科医の遠隔教育」と「慢性心不全病態のAIデータ解析」を選択いたしました。

今回の契約は、7年の長期契約となっており、今後も、東北大学が持つ高度医療と地域の医療に関する豊富な知識と経験、卓越したユーザーエクスペリエンスを生み出せる環境と、フィリップスのグローバルでの知見や研究開発機能を融合させ、超高齢化が進む日本において、医療現場、健康・予防領域のアンメットニーズ（未充足の課題）を解決し、更に世界に向けて先進事例となるような新しいソリューションやサービスモデルの創出を推進して行きます。

テーマ選定の背景と今後について

- 「麻酔科医の遠隔教育」

日本は慢性的な麻酔科医不足の状態にあります。麻酔科医の20-30歳代の半数以上が女性で、増加しているにもかかわらず、出産や育児に伴い、単位不足や専従医不足で専門医の更新に支障をきたす事例も少なくありません。また、広大な面積の割に専門教育の施設が少ない東北地方では、引越しや移動等モビリティに関する課題も多く、人生とキャリアの重要な局面において、働き方を犠牲にせず、専門性を高め、維持することは困難が伴います。加えて、コロナ禍で、臨床現場での実習が実施できず、確立された代替手段がない中で、医学生や研修医の育成が求められ、「教える側」の働き方にはかつてない大きなプレッシャーが生じています。

そこで、フィリップスと東北大学は、麻酔科医を取り巻く課題を解決する手段として、実習者と指導者が時間や地理的制約を受けず、現場実習相当の学びを再現できる仕組みを、AR/VR技術で実現したいと考えました。まずプロトタイプの開発と実証から開始し、将来的には、海外CRBパートナーと連携し、国際基準での教育を実現する次世代教育プラットフォームへと繋げて行くことを目指します。

東北大学と包括的連携を行っている
フィリップス社との学内プロジェクトに

麻酔科が選ばれました！

山内先生と大西先生が
「VR技術を用いた麻酔科医の遠隔教育」
をテーマに研究を始動させます！

